

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600377		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス池尻		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字345番地15		
自己評価作成日	平成31年2月4日	評価結果確定日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成31年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年、事業開始以来の思い出の旧施設から、新築成った現施設へ移転して丁度1年が経過致しました。移転前と同様に地域交流が保て、関係者各位に感謝する昨今です。今年度の重点支援テーマは、「利用者さまへ、最大の笑顔と真心をもって支援していきましょう」を掲げ、職員一丸となって取り組んでいます。このテーマは単に利用者の利便の追求に留まることのみならず、職員の意識向上とサービス精神の涵養を目指し、人間教育の一環として掲げています。開設以来17年目となり、地域に溶け込み、地域と一体となって認知症利用者の支援が行えています。今後はさらに地域との連携を深め、障害者や児童福祉との連携をも模索しつつ、前進してゆきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新築移転から1年、玄関入口に理念を掲示し、毎朝ケア目標などを唱和している。血液透析を受けておられる入居者の「食べたい」や視覚障害者の声掛けをして欲しいとの思いを受け止め、環境や対応の変化で不穏症状が出現することを理解した支援が実践され、運動や立位訓練などで目標のある頑張りを支援している。地域小学校との交流が長年継続し、来月は2台目の車イスの寄贈を受ける予定で、中学生となって職場体験で来訪する卒業生もあり、ホーム自体が馴染みの場となっている。法人代表は高いスキルと倫理観を持ち、最大の笑顔と真心で支援したいと実践者やリーダー研修受講を支援し、ホーム名称である「いきいき」と勤める職場づくりに努めている。昨今の異常気象を踏まえて地区の備蓄庫の設置予定で、地域包括支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/ 事業所名		いきいきハウス池尻			
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	創業からの理念の他に、年次重点テーマを掲げ、毎朝呼称し、職員への周知をしている。入居者だけでなく職員間も良好なコミュニケーションをとることで家庭的な雰囲気大切にしている。	玄関入口に理念を掲示し、毎朝ケア目標などを唱和している。法人代表は高いスキルと倫理観を持ち、最大の笑顔と真心で支援したいと話している。	ホーム理念を、共用空間の入居者や家族、職員などが目にしやすい所にも掲げ、実践に向けた研鑽を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行政区や隣組との付き合いを生かし、地域交流できるように取り組んでいる。近隣の小学校との七夕交流会や神幸祭の神輿・獅子舞の来訪もあり、事業所としての地位を築いている。今年、小学校より是非にと、車いすの寄贈を受けた。	同じ自治区内に新築移転しているため、地域小学校との交流が継続し、来月は2台目の車いすの寄贈を受ける予定である。中学生となって職場体験で来訪する卒業生もあり、長年にわたる交流の成果が今後も期待できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主導の予防教室等が中止されているため、来年度の町支援単独事業等を受託できれば行いたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見については、適切に対処し、改善や工夫を行い、運営に生かしている。	家族や地域代表、行政担当職員などの適切なメンバーで開催され、身体拘束廃止についての取組み、下肢の皮膚剥離や投薬のヒヤリハットなどを報告し、今後の対応策を徹底していく機会としている。会議録は玄関横の事務室で公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や相談が頻繁に行われており、行政の訪問や要請も多々ある。介護職の勉強会にも定期的に参加している。	地域包括支援センター主催の研修会に参加し、内容を法人全体で共有している。風水害時の避難場所を、町の担当者に確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修で職員の指導を行い、理解を深めている。また、身体拘束を含めた介護周辺の知識が浅い職員が多いため、「待つて」や「忙しい」と対応するのではなく、一旦手を止めて対応するようにしている。	年間研修計画に沿って身体拘束について研修している。視覚障害で移動に介助を要する入居者や車いす使用者の声かけに、スピーチロックではなく、「すぐに行きますよ」と手を止めて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相互監視による報告の仕組みをルール化し、情報を収集し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修での習熟チェックを行い、権利擁護の気持ちが浸透するようにしている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、入居者や家族に随時説明している。行政担当者と連携しながら法人代表が後見人を務める入居者もいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し納得いくまで確認している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望は、出しやすい雰囲気でごちからからお尋ねもし、責任者へ必ず伝達されるようにしている。	月1回支払いに来訪するのを楽しみにしている家族が多く、昨年11月の10日間開催したホーム文化祭では、入居者の作品を展示し、家族に持って帰っていただいている。入居者が家族に「食事が少ない」、「食べていない」と話す場合は、食事時間の来訪をお願いしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で出された意見を検討反映させるほか、日々の気づきを吸収する工夫をしている。申し送りノートを活用して、小さなことでも全職員が共有できるよう確認を行っている。	毎月職員会議を開催している。個々の入居者のケア方針の検討や行事に関する話し合いをしている。申し送りノートには夜勤専従の職員の詳細な気づきが記載されているが、介護課長が月1回面談を実施し、日勤帯との円滑な運営に結びつけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き甲斐のある職場作りを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は公平であり、性別や年齢、資格にこだわらず、人間性で採用している。社会参加や自己実現の取組を今後充実させたい。	ハローワークで求人し、面接では代表や介護課長が介護に対する思いをまず聞いている。20～70歳代の年齢に幅のある男女の職員が勤務し、今年度は実践者やリーダー研修を受講した職員もある。初心者マークを付けた新人職員が入居者と談笑する姿もあり、生き生きと就労する姿が伺えた。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修を通じて、人権尊重教育を実施し、サービス提供に生かしているか、実践状況の把握に努めている。	県や保険者主催の人権研修に参加し、全職員に伝達している。否定的な言葉についてはその場で指導するなど、理念に掲げた尊厳を守る支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験者の就業者も多く、研修でマニュアルに従って、自然に習熟度を上げられる取組をおこなっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域介護ネットワークが立ち上がり、今後増加する予定である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して穏やかに過ごせる見通しが確立するまで、初期アセスメントを継続し、生活基盤作りを優先させる。表面的なことではなく真のニーズを掴むよう、職員の気づきが重要であると認識している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を通じて行っている。何でも言い易くするため、投げかけを行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスの利用が第一優先であるという認識の下で、ニーズの確認を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協力しながら、支えあいながら、ともに暮らす、という雰囲気ができている。人間関係や相性に合わせた仲間分けや席決めなどでアットホームな関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用開始当初から、協力を要請し、家族の関与を引き出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の支援を得て、本人の意思を尊重している。	日常的に家族と買い物やお彼岸の墓参りに出かけたり、家族の了解を得た友人の来訪をお願いしている。馴染みの関係や場の継続を支援しているが、長年の地域小学校との交流で、ホーム自体が馴染みの場となっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独にならないように、共同レクリエーションや作業を通じて、さりげない支援を継続している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	折々訪問するなど、安否確保に努めている。年間カレンダーは、毎年届けて、関係が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通じて安心して穏やかに過ごせるように把握に努めている。初期アセスメントを継続し、生活基盤作りを優先させ、本人本位の把握に努めている。	フェースシートやアセスメントシートを整備し、意向の把握に努めている。血液透析を受けておられる入居者の「食べたい」との思いや視覚障害者の声掛けをして欲しいとの思いを受け止めた支援が実践されている。	前回のアセスメントシートに印字の色を変えて記載するなどの工夫で経時的変化を把握し、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前段階での情報収集や、関係者からの聞き取りを通じて、本人本位に行われている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する心身状態や健康管理面の情報を適切に分析し、個々人に合わせた支援に繋げている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを適切に行い、モニタリングを通じて現状ニーズの把握をし、最適の計画を作成・実行している。	詳細な申し送りや気付きを話し合い、介護計画の作成や見直しをしている。環境や対応の変化で不穏症状が出現することを理解した支援が実践され、運動や立位訓練などで目標のある頑張りを支援している。	入居者が納得する目標のある頑張りを支援するために、短期目標に連動したケアの実施やモニタリングによる見直しを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有・計画の見直しについては、職員間の連携が取れており、適切に行われている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部サービスの導入の検討や業務改善アイデアなどにより、柔軟に対応できる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や商店街の催事の活用など、積極的に取り組んでいる。今年、小学校の交流授業で車いすの寄贈を受けた。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得て、希望の医療機関への受診が行われている。入居以前のかかりつけ医受診もできるだけ職員が支援している。	眼科や歯科などの受診同行は基本家族にお願いし、協力医療機関受診は職員が対応している。看護職員が全入居者の健康状態を把握し、早めの受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の把握は、日々の観察の中、カンファの際、ともに情報の共有を行い、適切に医療機関に繋げている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を、例外なく入院先と打ち合わせできている。入院中のメンタル対策にも成果を上げている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時で大まかな希望を聴取し、その後状態変化に応じてご家族や本人の希望に沿った方針を示している。必要な場合医師を含めた三者で終末期の対応を話し合っている。	重度化や終末期に向けた方針を整備し医療機関との連携体制が整備されているが、現在まで看取りはない。系列ホームでは重篤な疾患のある入居者が急変され、家族の意向で医療機関に搬送している。当ホームでも意向に沿った支援をする予定でる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通じて、各職員の能力に応じた訓練を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政区の避難場所への誘導時において、地域住民への協力を要請している。	消防署の指導を受けて、年2回避難訓練を実施している。裏の避難口は段差について指導を受け、安全な避難経路を確保する予定である。1ヶ月分の飲料水やご飯、簡易トイレなどを保管する備蓄庫を整備しているが、玄関横に地区備蓄庫の整備も検討している。	地区備蓄庫の整備の実現や、ホームが高台に新築移転していることから、地域の避難所として保険者や地区に申し出られることを願っています。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者へは敬語で接する事を基本に、尊重する姿勢で臨むよう指導を行っている。	視覚障害のある入居者にも目線を合わせて会話をしたり、〇〇さんと穏やかな声かけや対応が実践されていた。視覚障害のある入居者のお皿やコップをそっと置き換える入居者の姿は、お互いを尊重し合う心地よい雰囲気を作っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みの食材の調査を行ったり、今日の食べたいものに合わせたメニュー変更等柔軟に行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がこうしたいという希望の表出を見逃さず、さりげなく促すなど、希望を叶える行動を取っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択が出来る取組を行っている。服は自分で選んでいただくほか、整髪や身だしなみ等には気を配っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の自発的な行動を尊重しながら、食事に対する関わりを持たせる支援を行っている。野菜の皮むきや食器・トレイ拭き等をお願いする利用者もいる。誕生日会では本人希望の食事メニューにしている。	献立を話題に其々のペースで完食する入居者が多い。全入居者の好物を把握した職員が誕生日メニューを作っている。桜が咲いたらみんなでおにぎりを作って花見をとの話題に、笑顔が溢れた。入居者3名が、あれこれ話しながらお膳に箸をセットしたり、茶碗や皿などを丁寧に拭き上げるなど、其々の力を活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立のバランス、摂取量の把握を通じて、随時に医師とも相談しながら行っている。水分は1600cc/日を目安に年間通じて取り組んでいる。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自発的ケアを促すとともに、利用者に合わせた内容で行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活支援の中の重要な活動と捉え、支援促進を積極的に行っている。排泄パターンに応じた声かけや誘導を行っている。	車いすが容易に使用できる広いトイレを3か所設置している。排泄が自立している入居者もあるが、本人の声かけや時間毎でトイレに誘導するなど、トイレでの排泄を支援している。不穏になりやすい入居者は、言動に配慮しながら夜間はベッドで尿取りパットを交換している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師との連携の中で主体的に取り組むほか、運動、水分、食物繊維に立脚した対応を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のパターンは施設で決めているが、本人の意思を尊重することができるような柔軟さを持たせている。	明るく広い個浴槽が設置され、週3回の入浴を支援している。個別のバスケットに其々のシャンプー等が準備され、楽しんで入浴できるように支援している。入浴を億劫がる場合は声かけを工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠への過程で、安らぎを持たせる支援を行って、安眠が確保できるよう、取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳により、用法や副作用は把握できている。医師との連携により、適切な支援に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の志向に合わせた取組ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と相談をしながら、行きたい場所への支援を行っている。地域行事や買い物、また、日課として飼犬と一緒に散歩している。	季節毎の花見は3回に分けて楽しんでいるが、桜の花見はみんなでおにぎりを作って恒例となっている。帽子を被って庭で洗濯物を干したり、血液透析を受けている入居者は愛犬との散歩が運動療法になっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持することはほとんど無いが、施設の買い物に出かける際、利用者が支払い、計算する事を支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	折々の時候の挨拶を、はがきや手紙で行えるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには月ごとに異なるテーマ装飾が掲示されている。そのほかにも季節感を出せるよう、利用者と工夫して、行っている。	玄関先に設けられたお洒落で明るい屋根のカーポートやスロープが外出を容易にしている。ホーム中央の明るく広い共有空間は空調が管理され、テレビコーナー、机や椅子が設置され、壁面には行事の写真や季節の手作り壁画が掲示され、温かな雰囲気である。入居者達は其々の場所で食事や体操、レクリエーションを楽しんでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席を仕分ける工夫をしたり、ソファーへの使用を勧めたりしながら居心地のいい工夫を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持ち込んでもらっており、居室の工夫はご家族とともにおこなっている。各居室の入り口には大きく利用者名が掲示され、居室間違いを防ぐ工夫をしている。	職員がその方の好きな事柄を考慮して作成した誕生日祝いの大きな壁画は、訪れた家族から喜ばれている。窓から外を眺めたいと背伸びする入居者のベットは窓際に設置され、転倒を防止している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は見守りに徹し、利用者の自立主体で支援を行っている。		